

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)3月29日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	1	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	所属 企画振興課
事業名	リニア中央新幹線とのアクセス調査事業			電話	0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要等	目的 (目指す姿)	2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業に向け、リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方を検討するに当たり、必要となる各種データ等の整理と分析を行う。			
	現状と課題	2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業に向け、リニア中央新幹線長野県駅とのアクセス(二次交通)のあり方を検討するに当たり、必要となる各種データ等が不足している。 分析を行うに当たり、平成29年度に次の業務を行った。 ○交通に関する基礎的情報の収集・整理 ○交通行動に関する意向調査・分析			
	内容 (変更後の内容)	○先行事例の調査・分析 新幹線駅設置に伴う交通動向の変化について先行事例を調査・分析する。 ○方面別・交通手段別利用者数の試算 各種データ・分析結果に基づき方面別・交通手段別の利用者数を試算する。 ○現況の交通サービスの評価 リニア開業後において想定される現況交通サービスの問題点等を整理する。 ○想定されるアクセス手段の評価 リニア開業後に望まれるアクセス手段の基本的な考え方を整理する。			
	事業期間	平成30年4月		～	平成31年3月
	成果目標 (成果指標)	リニア中央新幹線長野県駅とのアクセスのあり方を検討するに当たり、必要となる各種データ等の提供			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	アクセスのあり方検討事業	アクセスのあり方検討	2,899,046		
	合 計		2,899,046		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	企画振興部交通政策課、建設部リニア整備推進局、上伊那地域振興局及び南信州地域振興局が連携して実施した。 各種データの収集・整理及び専門的事項に係るアドバイス業務については外部に委託して行い、効率的な業務遂行を図った。 ○中央コンサルタンツ(株)飯田事務所 ○平成30年11月1日～平成31年3月13日		○先行事例の調査・分析 ○方面別・交通手段別利用者数の試算 ○現況の交通サービスの評価 ○想定されるアクセス手段の評価 を検討することができるように、必要となる各種データ等の収集・整理と分析を行った。		○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下
今後の方向性	これまでの事業実績・効果を踏まえ、2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業に向け、リニア中央新幹線長野県駅とのアクセス(二次交通)のあり方を、今後検討していく。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成30年(2018年)10月11日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	2	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	
事業名	広域観光移動システム実証実験事業			所属	企画振興課
				電話	0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要	目的 (目指す姿)	リニア中央新幹線の開業を見据え、上伊那地域の観光拠点を広域的に繋ぐシステム構築に向けたバスの実証運行を行う。			
	現状と課題	<p>○上伊那西部地域には、中央アルプス駒ヶ岳をはじめとした観光拠点が点在しているが、交通機関がなく来訪者の周遊が図られていない。</p> <p>○来訪者が観光地を周遊するためには、市町村の枠を超えて広域的に取り組む必要がある。</p> <p>○リニア中央新幹線開業後に、広域で来訪者を周遊させる移動手段を検討する必要がある。</p>			
	内容 (変更後の内容)	<p>平成30年8月1日(水)～8月26日(日)の26日間、食品産業に係る観光拠点を広域的に結ぶ路線バスの実証運行を行う。</p> <p>○運賃 ・1乗車につき 大人300円、小中学生150円 ・1日乗車券 大人1,000円、小中学生500円 (未就学児、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者及びその介護人は無料)</p> <p>○運行区間 JR伊那市駅 ～ かんてんぱぱガーデン ～ 北川製菓(ル・ノール・リヴィエール) ～ マルス信州蒸溜所 ～ 駒ヶ根ファームス ～ 養命酒 健康の森 (1日3往復)</p>			
	事業期間	平成30年8月		～ 平成30年8月	
	成果目標 (成果指標)	<p>○上伊那地域の観光拠点を広域的に結ぶバス運行の需要の検証</p> <p>○1日当たり28人の延べ利用人数(H29は19.2人、昨年度の1.5倍)</p>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	広域観光移動バス実証実験事業	広域観光移動バスの運行	2,429,671		
	合 計		2,429,671		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	<p>今年度は、「食」をテーマとし、昨年度より停留所を増やし運行距離を短くするとともに、1日2往復から3往復にするなど利便性の向上を図った。</p> <p>JR飯田線との接続や、駒ヶ根高原の宿泊者等に配慮した運行を行った。</p> <p>○運行期間 8月1日～8月26日(26日間)</p> <p>○延べ利用人数715人(H29は519人、対前年度比137.8%)</p> <p>○1日当たり27.5人(H29は19.2人、対前年度比143.2%)</p> <p>○1便当たり9.2人(H29は9.6人、対前年度比95.8%)</p>		<p>昨年度の実証運行を踏まえて利便性の向上を図った結果、延べ利用人数は昨年度より増加し、ほぼ目標どおりだった。</p> <p>また、大人の利用人数の割合が増加し、それに伴い運賃収入が増加した。</p> <p>アンケート結果から、県外の利用者が4割を占めることが判り、駒ヶ根高原等への県外からの宿泊客がバスを利用していることがうかがえた。</p>		<p>○ 期待以上</p> <p>● 期待どおり</p> <p>○ やや下回る</p> <p>○ 期待以下</p>
今後の方向性	県外からの宿泊客や幅広い年齢層での需要があり、利用者からはより充実した運行を望む声もあるため、広域移動システムの構築のあり方を検討していきたい。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)3月29日

上伊那地域振興局

提出区分	実績					
整理番号	3	課題区分	C			
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	企画振興課	
事業名	インバウンド拡大事業			所属	電話 0265-76-6801	
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要等	目的 (目指す姿)	「雪のアルプスと食」をテーマとして、台湾からの誘客を図るため、ブロガーや旅行雑誌編集者等を対象とした視察旅行を行う。				
	現状と課題	<p>○上伊那地域の平成28年度の外国人延宿泊者の割合は、年間で県全体の1.9%にとどまっているが、インバウンド戦略は「都市から地方へ」の流れがあり、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道等の高速交通網の整備を活かした交流人口の拡大が期待されている。</p> <p>○平成30年10月1日、上伊那8市町村を圏域とする地域連携DMO「一般社団法人 長野伊那谷観光局」が設立され、更なる広域的な観光地域づくりの推進が期待されている。</p> <p>○昨年度、台湾の旅行会社を招請した課題として、上伊那地域のPRの必要性が挙げられた。</p>				
	内容 (変更後の内容)	<p>台湾のメディア関係者を招請し、視察旅行を実施する。</p> <p>○被招請者:ブロガー2名、旅行雑誌編集者2名の計4名</p> <p>○招請時期:平成31年1月31日(木)~2月3日(日) 3泊4日</p> <p>○行程:上伊那地域振興局管内ほか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目 中部国際空港から上伊那地域へ 伊那市泊</li> <li>・2日目 かんてんぱぱガーデン、中央アルプス千畳敷カール 駒ヶ根市泊</li> <li>・3日目 光前寺、養命酒健康の森 駒ヶ根市泊</li> <li>・4日目 飯島陣屋、米澤酒造、上伊那地域から中部国際空港へ</li> </ul>				
	事業期間	平成30年12月		~	平成31年3月	
	成果目標 (成果指標)	<p>○ブロガー1人当たりのページ閲覧数 70,000PV/月</p> <p>○旅行雑誌「TO'GO泛遊情報」発行部数 65,000冊/月</p>				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	外国人旅行者誘客促進事業	台湾のメディア関係者を招請した視察旅行	1,730,235			
	合 計			1,730,235		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	台湾のメディア関係者を招請し、上伊那地域振興局管内の視察旅行を実施した。 ○被招請者:ブロガー2名、編集者2名の計4名 ○招請時期:平成31年1月31日(木)~2月3日(日)3泊4日 ○行程:中部国際空港(出入国) 羽広農業公園みはらしファーム、かんてんぱぱガーデン、中央アルプス千畳敷カール、光前寺、養命酒健康の森、飯島陣屋、米澤酒造		春節直後にも関わらず視察旅行から1箇月で、ブロガー2名のSNSがそれぞれ約35,000PVあった。今後、旅行シーズンになれば更に伸びていく。また、TO'GO泛遊情報に視察旅行の様子が巻頭5ページにわたり掲載され、65,000冊発行された。旅行者の2大情報源であるWebとガイドブックにより、台湾に広く上伊那地域の情報を発信できた。		<input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下	
今後の方向性	課題解決のため、外国人旅行者の誘客に向け、(一社)長野伊那谷観光局と連携しながら環境づくりを進めていく。					

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)3月29日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	4	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局			担当課	企画振興課
事業名	上伊那産「美味しい昆虫」普及・拡大事業			電話	0265-76-6801
				E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>
事業の概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域が世界に誇る昆虫食文化を後世に残すとともに、上伊那産「美味しい昆虫」の普及・拡大を図るため、上伊那地域の昆虫食文化の情報発信を行う。			
	現状と課題	上伊那地域には、ざざ虫、蜂の子、いなご、蚕のさなぎ等を食べる昆虫食文化が古くから地域に根付き、特に、ざざ虫を食べる食文化は上伊那地域特有のものである。しかし、特に若者の中には、その食文化に触れずに、食文化を知らずに生活しているものも多い。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「信州伊那谷の美味しい昆虫」の発刊 1,000部、A5判168ページ(表紙含む)、フルカラー</li> <li>○シンポジウムの開催 平成31年2月17日(日)、伊那市創造館、基調講演、シンポジウム</li> <li>○昆虫食文化の伝承 平成31年1月26日(土)、高校生によるざざ虫調査、ざざ虫漁体験</li> <li>○銀座NAGANOでのPR 平成31年3月1日(金)、2日(土)、銀座NAGANO、パネル展示、ミニシンポジウム、試食会等</li> </ul>			
	事業期間	平成30年5月		～	平成31年3月
	成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊那市創造館のシンポジウム 80名の参加</li> <li>○ざざ虫調査、ざざ虫漁体験 高校生6名の参加</li> <li>○銀座NAGANOのPRイベント 150名の参加</li> </ul>			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	冊子作成事業	「信州伊那谷の美味しい昆虫」の発刊	754,857		
	シンポジウム開催事業	基調講演、シンポジウムの開催	117,094		
	昆虫食文化伝承事業	ざざ虫の調査、ざざ虫漁の体験	62,089		
	PR事業	パネル展示、ミニシンポジウム、試食会の開催	182,160		
合 計			1,116,200		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	冊子「信州伊那谷の美味しい昆虫」を発刊した。 ○1,000部、A5判168ページ(表紙含む)、フルカラー 美味しい昆虫シンポジウムを開催した。 ○平成31年2月17日(日)、伊那市創造館 高校生によるざざ虫漁の体験を行った。 ○平成31年1月26日(土)、天竜川の漁場、伊那北地域活性化センター 銀座NAGANOで昆虫食のイベントを開催した。 ○平成31年3月1日(金)、2日(土)		目標を上回る参加者があり、「昆虫食を目当てに伊那へ出掛けたい気分になった」とのコメントも聞かれた。 ○美味しい昆虫シンポジウムへの参加者 県内外から約130人 ○高校生によるざざ虫漁体験への参加者 上伊那農業高校の生徒7人 ○銀座NAGANOでの昆虫食のイベントへの参加者 首都圏在住者を中心に約170人		<input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下
今後の方向性	上伊那地域の昆虫食文化の情報発信を行い、上伊那地域が世界に誇る昆虫食文化を後世に残し、上伊那産「美味しい昆虫」の普及・拡大を図っていききたい。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)2月21日

上伊那地域振興局

提出区分	実績			
整理番号	5	課題区分	C	
実施機関	上伊那地域振興局、上伊那農業改良普及センター		担当課	所属 農政課
事業名	上伊那 移住×起業(くらしとしごと)シンポジウム開催事業		電話	0265-76-6812
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-nosei@pref.nagano.lg.jp">kamichi-nosei@pref.nagano.lg.jp</a>
事業概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域での移住者や起業者の拡大に向けて情報発信を行い、農家民泊など農山村を拠点とした交流や滞在交流型観光を実現し、産業の振興を促進する。		
	現状と課題	2027年に予定されているリニア中央新幹線の開業に向け、魅力あふれる人材の育成が急務である。また、情報発信の機会に乏しく、地域内の連携を強化し、既成概念にとらわれない、柔軟な視点や価値観に基づく施策を発信していくことが必要である。		
	内容 (変更後の内容)	女性ならではの視点や価値観に焦点を当てた、地域で活躍する女性の移住者や起業家によるシンポジウムを開催する。 ○基調講演 ○パネルディスカッション ○地元女性による事業の紹介、商品の試食		
	事業期間	平成31年1月		平成31年1月
	成果目標 (成果指標)	シンポジウム終了後のアンケートで、「大満足」、「満足」と回答した者の割合が全体の70%以上		
事業費等	(単位:円)			
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考
	上伊那 移住×起業(くらしとしごと)シンポジウム	基調講演、パネルディスカッション	179,164	
	合 計		179,164	
事業実績・成果	事業実績	事業の成果	評価	
	上伊那地域で活躍する女性の移住者や起業家によるシンポジウムを開催した。 ○平成31年1月10日 ○基調講演 ○パネルディスカッション ○来場者数100人	アンケート回答者の満足度(大満足及び満足と回答した割合)は次のとおり ○基調講演 47/53=88.7% ○パネルディスカッション 45/51=88.2% ○全体 46/50=92.0%	<input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下	
今後の方向性	今回のシンポジウムを足掛かりに、移住者や起業者を拡大し、地域内における連携強化を図るため、引き続き関係機関とともに情報発信の支援を推進する。			

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)3月29日

上伊那地域振興局

提出区分		実績			
整理番号		6	課題区分		C
実施機関		上伊那地域振興局		担当課	所属 環境課
事業名		伊那谷アウトドア・自然体験推進連携事業			電話 0265-76-6817
				E-mail	kamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp
事業概要等	目的 (目指す姿)	伊那谷の雄大な自然を、アクティブなアウトドア・自然体験等を通じて満喫できる場として活用し、多様な交流と地域づくりの推進を図る。			
	現状と課題	上伊那地域の豊かな山岳高原資源を活用し、大都市商業圏に近い利便性を活かしたアウトドア、自然体験等による地域づくりを進めるため、レベルアップを図ることが必要である。			
	内容 (変更後の内容)	<p>上伊那地域の財産である陣馬形山、鹿嶺高原、宮田高原等の中低山・高原など伊那谷の雄大な自然を積極的に活用するため、「伊那谷アウトドア・自然体験推進連携会議」を開催する。</p> <p>○民間のノウハウを学ぶための講演 長野県と株式会社モンベルとの包括連携協定による取組について ～アウトドア活動の促進による地域活性化について～ 設楽文昭氏 株式会社モンベル 広報部主任</p> <p>○関係事業者による情報交換 アウトドア・自然体験等事業者、運輸事業者、商工観光関係者、農業関係者、漁業関係者、市町村、県</p>			
	事業期間	平成31年3月		～	平成31年3月
	成果目標 (成果指標)	情報共有体制の確立			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	伊那谷アウトドア・自然体験推進連携会議	講演、情報交換	54,520		
合計			54,520		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	長野県のほか全国の自治体と包括連携協定を結ぶアウトドア用品の、株式会社モンベルが全国展開する自然体験企画等、最新のノウハウを学んだ。また、上伊那地域のアウトドア事業者、市町村等の関係事業者により、伊那谷の自然資源である身近な中低山・高原を活用した取組についての情報交換を行った。 ○平成31年3月6日 ○講演、情報交換 ○参加者数約30人		会議参加者が、講演を通じてその手法や誘客効果についての理解を深めた。上伊那地域のアウトドア、自然体験の取組について、市町村をはじめ関係事業者間で情報共有を図ることができた。		<input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下
今後の方向性	伊那谷の雄大な自然資源、とりわけ中低山・高原を活用したアウトドア・自然体験の推進を積極的に図るため、市町村をはじめ関係事業者間での情報共有を図る。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)2月21日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	7	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	商工観光課
事業名	INA Valley産業支援ネットワーク活動推進事業			電話	0265-76-6829
			E-mail	kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	上伊那地域の企業が稼ぐ力を十分発揮できるよう、地域の産学官金が連携する地域オープンイノベーション体制の構築を図る。			
	現状と課題	上伊那地域の産業支援機関の連携を目的とした「INA Valley 産業支援ネットワーク」を平成29年度に立ち上げた。この組織の実効性のある連携により、企業の課題解決や新たな産業創出を目指すオープンイノベーション体制を確立する必要がある。			
	内容 (変更後の内容)	「INA Valley 産業支援ネットワーク」での産業支援機関の連携のため、次の事業を実施する。 ○企業支援のための情報共有 会員名簿を共有することにより会員相互の連絡体制を構築し、支援情報等を共有する。 ○定期的な情報交換会の開催 上伊那地域の中堅企業の活動や課題の紹介、大学等の研究や産業支援機関等の取組をネットワーク会員間で共有し、企業支援に活かす。 ○産業創出プロジェクトの水平展開			
	事業期間	平成30年5月		～	平成31年3月
	成果目標 (成果指標)	情報共有体制の確立			
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	ネットワーク活動推進事業	情報交換会の開催等	211,980		
合 計			211,980		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	企業支援のための情報を提供し会員相互で共有するとともに、情報交換会を開催した。 ○情報提供 計38回 ○情報交換会 計4回、講師13名、会員延べ93名参加		本ネットワークの活用により会員相互の情報共有をより活発に行うことができた。 また、情報交換会の開催を通じ、会員とJOCA、JICA、信州大学等との関係構築を図ることができた。		<input type="radio"/> 期待以上 <input checked="" type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下
今後の方向性	本ネットワークの実効性のある連携の活用により、企業の具体的な課題解決や新たな産業創出の支援に向けた取組等を進める。				

(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成31年(2019年)3月29日

上伊那地域振興局

提出区分	実績				
整理番号	8	課題区分	C		
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	企画振興課、農地整備課
事業名	農業水利資産の郷土学習事業		電話	0265-76-6801、0265-76-6816	
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">kamichi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a> <a href="mailto:kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp">kamichi-nochi@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業の概要	目的 (目指す姿)	地域を支え、社会に貢献できる人材を育成する。			
	現状と課題	上伊那地域では、高い品質を誇る米をはじめ、河岸段丘等を利用した多彩な農畜産物が生産されている。この姿は、地域に暮らす人々が長い時間をかけて造り上げてきたものである。これを維持発展させるためには多くの人材が必要であるが、上伊那地域の人口は、2005年の19万2千人をピークに減少傾向となり、現在では18万2千人となっている。また、今後も人口減少と高齢化の進展が見込まれることから、地域を愛し地域を支える人材の育成が課題となっている。			
	内容 (変更後の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の作成活用 上伊那地域西部の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区のかんがい施設」の歴史や役割が学習できる冊子や下敷きといった教材を作成し、活用する。</li> <li>○ 農業用水探検隊の開催 受益地内に暮らす小学生を対象に、作成した教材を活用した「現地見学会」を開催し、「施設を管理する方々や地域農家とのふれあいの場」を設け、地域を支えることの大切さを学習する機会を提供する。</li> </ul>			
	事業期間	平成30年4月		～	平成31年3月
成果目標 (成果指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現地見学会7回の開催</li> <li>○ 児童300名の参加</li> </ul>				
事業費等	(単位:円)				
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考	
	教材作成活用事業	冊子、下敷きの作成活用	463,420		
	農業用水探検隊事業	現地見学会の開催	96,480		
合 計			559,900		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価
	2種類の教材を作成した。 ○郷土学習冊子1,000部の作成 ○下敷き500枚、現地見学会で活用 現地見学会を9回開催した。 ○7小学校、児童389名、随同行の先生24名参加		現地見学会に参加した小学生や随同行の先生に、上伊那地域西部の農業を支える「西天竜幹線水路」や「伊那西部地区のかんがい施設」の歴史や役割を学ぶ機会を提供した。 また、各小学校では、現地見学会に参加するに当たり、独自に事前学習を行うなど、現地見学会を契機とした自発的な取組が見られるといった成果があった。		<input checked="" type="radio"/> 期待以上 <input type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下
今後の方向性	継続的に現地見学会を開催し、郷土学習冊子や下敷きといった教材を活用することにより、地域を支え社会に貢献できる人材を育成していく。				



(様式第2号)

## 地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

平成30年(2018年)12月6日

上伊那地域振興局

提出区分	実績					
整理番号	9	課題区分	C			
実施機関	上伊那地域振興局		担当課	所属	商工観光課	
事業名	JR東海と共同造成した上伊那周遊ツアー広報事業		電話	0265-76-6832		
			E-mail	<a href="mailto:kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp">kamichi-shokan@pref.nagano.lg.jp</a>		
事業概要	目的 (目指す姿)	JR東海や管内自治体との連携により、名古屋方面での上伊那地域の知名度向上を図る。				
	現状と課題	JR東海とは昨年の信州DCにおいて良好な関係が構築され、JR東海から旅行会社への働きかけにより、今秋の上伊那周遊の旅行商品が造成された。旅行商品の販売促進のため、名古屋駅等でのポスター掲示による上伊那地域のPRを実施する。また、名古屋駅等による大型広報は、管内自治体からも絶好の機会と捉えられており、10月1日設立の長野伊那谷観光局(DMO)の先行的な取組として期待されている。				
	内容 (変更後の内容)	<p>○ポスターの掲示 8月末から8週間程度、名古屋駅等の各駅や東海道線等の列車内でポスターを掲示する。</p> <p>○JR東海や管内自治体等との連携、役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターのデザイン作成、印刷の費用負担(駒ヶ根観光協会、箕輪町)</li> <li>・JR東海との調整、ポスター下帯デザイン使用料、掲出撤去料の負担(上伊那地域振興局)</li> <li>・駅等へのポスター無料掲示の手配(JR東海)</li> </ul> <p>○その他PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自社の旅行パンフレット「Shupo」に商品情報を掲載し、JR東海の各駅等に配置(JR東海)</li> <li>・旅行会社による中日新聞への150万部の折込広告、会員誌22万部の発行(阪急交通社)</li> </ul>				
	事業期間	平成30年8月		～	平成30年10月	
	成果目標 (成果指標)	JR東海や管内自治体との連携による、旅行商品販売促進と上伊那地域のPR				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考		
	上伊那周遊ツアー広報事業	ポスターの掲示	202,520			
	合 計		202,520			
事業実績・成果	事業実績	事業の成果	評価			
	JR東海と共同造成した上伊那周遊の旅行商品の販売促進のため、JR名古屋駅等でポスターを掲示し、上伊那地域のPRを実施した。  ○掲示期間 8月29日～10月31日 ○B1 300枚 ○B3 900枚	JR東海や管内自治体と連携し、JR名古屋駅等での大々的な宣伝により、名古屋方面での上伊那地域のPR、知名度向上を図った。  ○JR東海と共同造成したツアーへの参加者 157人	<input checked="" type="radio"/> 期待以上 <input type="radio"/> 期待どおり <input type="radio"/> やや下回る <input type="radio"/> 期待以下			
今後の方向性	平成30年10月1日、上伊那8市町村を圏域とする地域連携DMO「一般社団法人 長野伊那谷観光局」が設立され、官民一体となった広域的な観光地域づくりの推進が行われている。(一社)長野伊那谷観光局と連携し、継続的に上伊那地域観光のPRを図る。					